

理科実験のサポートに奮闘

子供好き水嶋和信さん

学習支援は仲良し学級ばかりでなく、学科ごとにアシスタントを務める活動もある。理科のサイエンスアシスタントとして2008年から活躍されている水嶋和信さん（生環12期・星和台在住）を紹介しよう。

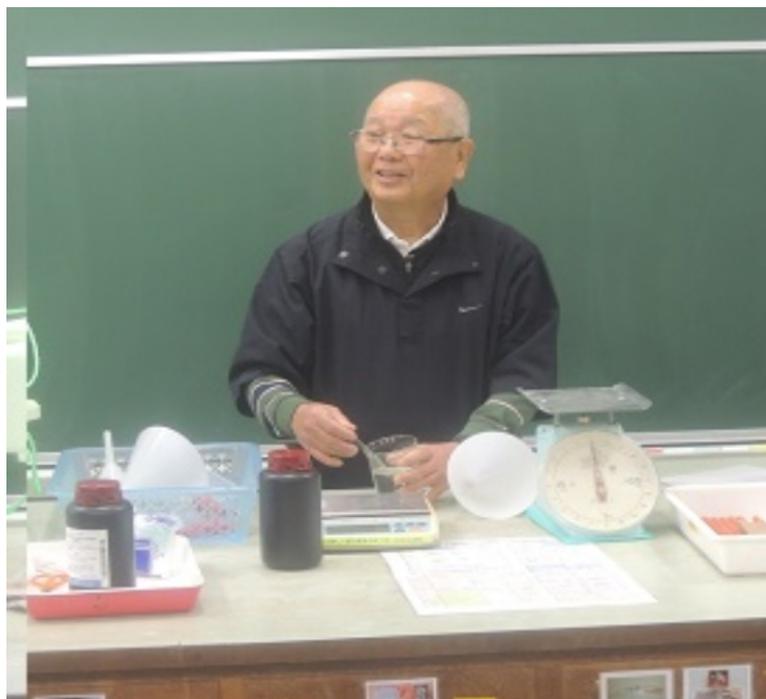
毎週木曜日が活動日という水嶋さんを訪ね、2月28日朝、桜の宮小に伺った。理科の授業は準備から片づけまで、子供たちがケガをしないよう万全の注意が必要でだ。化学薬品やガラス器具、人体模型、発電器具、星座の模型などがずらりと並ぶ理科室内は子供たちにとっては興味津々の世界。ロッカーや整理棚に名札付きで分かりやすく収納された器具類は水嶋さんのアイデアだとか。理科担当の先生からも感謝された。

授業でははっきり目に見える実験が人気。テコの原理を使ったものやミョウバンが溶ける化学反応には強い興味を示す。反面、怖いからという理由でマッチをすれない子供たちもいる。「今や家庭ではマッチを使う場面がまったくない、ということかな」と水嶋さんもびっくりしたという。一方で、子どもたちは草花を育てたり、ウサギや金魚を飼ったりすることが大好き。桜の宮小にも飼育栽培委員会があり全校で生き物を大切にしている。

残念ながらこの日は、理科の授業の代わりに調理実習だったので、水嶋さんも手持ち無沙汰の様子。



調理実習中の子供たちと水嶋さん



理科室で実験の準備をする水嶋さん

対象の6年生は近くのスーパーへ買い出しに行き、班ごとに野菜、卵、ベーコンなど食材を持ち帰ってワイワイと料理に熱中した。水嶋さんも実験のアドバイスならぬ食器や野菜の切り方のお手伝いをした。ベーコン巻やオムレツがなんとか出来上がり、子供たちは「うまいうまい」「ちょっと焦げた」とにぎやかに試食会を楽しんだ。

仲良し学級も支援

水嶋さんは桜の宮小のほか、南五葉小では仲良し学級（みなみ学級）の支援活動を8年前から続けている。南五葉は仲良しの児童が3人。車イスの児童も1人いるので先生2人に水嶋さんのようなボランティアが1人つく。

2つの学校で支援活動を10年も続けているのは大変なのでは？ と水を向けると、「いやいや、子供はかわいい。あまり苦になりません。体力が続く限り子供たちのサポートを続けたいですね」ときっぱり。小柄だが体力には自信がある水嶋さん。神戸マラソンや六甲全山縦走大会のボランティア、社協や介護施設・神港園のお手伝いもずっと続けている。なかなか出来ることではない。シルバーカレッジの模範生といっても言い過ぎではないだろう。

（取材 南形徹・写真 道満俊徳）

ボランティアの現場 ④

